

## 後援代表挨拶

### 環境事務次官 南川秀樹 氏

本日は、「日経調シンポジウム」の開催、誠にありがとうございます。

東日本大震災の被災地では今なお大変厳しい状況が続いておりますが、環境省としても、除染や災害廃棄物処理を始め、復旧・復興に全力で取り組んでいるところです。

他方で、このところ地球温暖化に関する話題が埋没しがちなことが課題のひとつであると考えております。

世界各国がグリーン経済の実現に向けて取り組んでいる中、我が国も、地球環境の保全に貢献と経済成長を同時に実現すべく、目に見える形で社会を変革していく必要があります。そして、環境先進国としての日本の技術や制度を世界に展開し、環境外交で世界をリードしていくことが重要です。

具体的な取組を挙げれば、今回のテーマの一つでもあります、バイオガスについて、環境省としまして、今年度からの新たな取組として、農林水産省と連携して「地域循環型バイオガスシステム」を構築するための事業を実施予定です。具体的に申し上げますと、地域の未利用資源である食品廃棄物や家畜排せつ物を活用してバイオガスを製造し、そのエネルギーを、周辺の農業用施設、農林水産加工施設などで利用するものです。このような取組は、温室効果ガス削減のみならず、資源循環、地域活性化、雇用創出、地域のエネルギー・セキュリティの向上にも繋がるもので、非常に重要な取組と考えています。

このような具体的な取組を加速させ、低炭素社会を創出していくためには、巨額の追加投資が必要であり、民間資本の活用が不可欠であります。その問題意識の下、去る1月に、石原環境大臣が「低炭素社会創出ファインンス・イニシアティブ」を発表いたしました。日本の金融機関はおよそ2,700兆円の資産を有しているとされています。

このイニシアティブは、こうした民間の資金をフルに活用して、低炭素社会を創り上げていく、という大臣の決意表明の表れです。出資・補助など様々な事業を展開し、温室効果ガスの排出削減に役立つプロジェクトを創出し、我が国の経済成長の原動力、地域を元気にする活力としていきたいという思いが詰まっております。

その柱のひとつが、今回、ご発表された



「八策」にも取り上げていただいている、地域低炭素投資促進ファンドの創設です。再生可能エネルギーの導入や省エネのためのプロジェクトを進めていくには、地域の金融機関や地元の企業の力が鍵となってまいります。環境省も、その「呼び水」とすべく、出資によってご入力を図ってまいります。こうした取組によって、温室効果ガスの排出削減に役立つプロジェクトを創出し、我が国の経済成長の原動力、地域を元気にする活力としてまいりますと考えております。

皆様のご協力を得ながら、温室効果ガスの削減と経済成長による富の創出の同時実現を目指し、環境省としても全力で取り組んでまいります。皆様にも引き続きご尽力をいただきますようお願いをし、私からの挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。